

県外派遣報告書

審判員名	伊藤 裕一	所属	中体連	
大会名	平成26年度 関東高校男子バスケットボール選手権大会			
期間	平成26年5月31日(土)～6月1日(日)			
会場	神奈川県 小田原アリーナ			
スケジュール				
期 日	内 容		場 所	
5月30日	審判会議		グランドホテル神奈中	
5月31日	1・2回戦		小田原アリーナ	
6月1日	準決勝・決勝		小田原アリーナ	
会議 講義 内容				
<p>5月30日(金)18:00～審判会議において指名審判員の東祐二さん、小澤勤さんによる講義が行われた。伊藤は校務のため参加することはできなかったが、配布資料を見ると、おおむね次のようなことが講義されたようである。</p> <p>東氏は①関東大会に審判員としてどう臨むか…。②様々な準備はしてきましたか？③今大会の最終目標は？それを達成するためにはマニュアルの4原則が大切です。もう一度なんのために4原則があるのか考えてみましょう→そしてゲームが終了したときに「GOOD JOB」になるように頑張りましょうということです。</p> <p>小澤氏からは「現在の自分の目標に対して、各要素の達成度を自己分析しましょう！」というテーマで講義が行われたようです。良い審判の要素として判定力、精神力、人間性、調整力、体力、知識があげられ、5段階で自己分析したようです。校務での欠席とはいえ、派遣の機会を頂いたにも関わらず、このような講義を聴き、県内審判員に伝達できないことを申し訳なく思っております。</p>				
実技				
担当試合	期 日	2014年5月31日(土)	男子	Bブロック1回戦
	対戦カード	県立秦野 VS 県立市川		主審 副審
	相手審判	望月 直幸 氏(東京)		
ミーティング内容		主任 久保 知仁 氏(千葉)		
<p>関東大会オープニングゲームということや地元チームの登場ということで、Bブロックとはいえ注目されているカードであった。お互いに突出した選手はいなかったが、「ファウル」に対する理解が低い選手が多く、前半からプレイングタイムを減らしている選手が数名いた。コート上で選手に何度も話をしたが、理解させてファウルを予防することはできなかった。試合終了後、審判主任より「話すことよりも、笛を鳴らしてファウルを積み重ねていく対応のほうがゲームにマッチしていたのではないか!？」と指摘して頂いた。思い返してみれば、まだまだ技術や精神的にも未熟な高校生にはそのような対応のほうがよかったと理解しました。ゲームレベルに対応したレフェリングをしていかないといけないと改めて感じた試合になりました。</p>				
全体の感想				
<p>今大会は千葉で行われるインターハイの4シードがかかった大会のため、最終日にも緊張感のある試合が多く見られた。上級の人数が多い神奈川県や派遣されてきた審判員の頑張りもあり、緊張感のある試合にも、しっかりに対応していたのではないかと感じた。その中で、本県の北島氏がファイナルの割当てをもらい、先日のNBLファイナル4で審判を行った東氏、小澤氏とできたことは本人や本県にとっても良い経験になったと思います。その中で北島氏は1試合通して自分らしくコートに立ち続け、判定し続けたことは高評価だったと思います。今後も関東全体の審判のレベルアップとともに、本県もそれにおいていかれないように頑張っていかなければいけないと強く感じました。また審判のレベルアップが、今後の日本のバスケットボールの発展に必ず貢献できることを信じています。</p>				